

子ども映画祭への作品募集中



子ども映画祭作品づくり講座

みんなで平成23年8月27日に南あわじ市三原公民館で開催される、アジア国際子ども映画祭「関西・四国・中国ブロック大会」に出品しよう。

◆日時 **6月18日(土)午前9時30分～11時**

◆場所 三原公民館

※参加無料。参加者は前日までにご連絡ください

◆対象 小学～高校生及びそれらの年齢に相当する人

※数に限りがありますがビデオカメラの貸し出しも可能です。また映画祭への作品の応募方法は市ホームページを参照ください

圏生涯学習文化振興課 ☎37-3020



ブライダルフェスティバル2011



ブライダルファッションショー

市の歴代成人式実行委員で結成されたグループFRONTIERSが、ふるさとで結婚への夢や希望を持ち、イベントを通じて交流や絆を深めていきたいとして、ファッションショーを昨年に引き続き企画しました。

◆日時 **6月19日(日)午後1時00分～**

◆場所 イングランドの丘

圏生涯学習文化振興課 ☎37-3020



市 福永 (いちふくなが)

『続三原郡史』 郡史の拾い読み 知っておきたい…

地名の由来

その24

開発田の在名：

平成十六年現在では市市南部を占める傍示である。東は市小井と市円行寺に接し、南東は市青木、西は市三條に接する。福長とも書かれる。藩政の時代、浦壁大池の池守役であった福長の喜田家第六代久之進門次(1819没)編「永代録」によると、初代喜田久助は寛永二十年(1643)、浦壁大池の御普請(藩工事)を完成した功績により、藩庁より正保四年(1647)、浦壁大池の池守役を命じられ、市村の内、田一町歩開くことを認められ、そのうち五反歩を池守料として与えられた。藩庁はその開発田の在名を福永と付けたという。その後、久助の開発した田畑は十七町八反になったという。これが

福永村の起源である。浦壁大池は数か村の用水であるから、藩は喜田久助を池守役としたので、福永を市村の内の福永としたのである。福永は国道沿いで、明治十七年(1884)に三原郡役所が置かれ、大正十二年(1922)、淡路鉄道市村駅が開発され、商店街ができ、福永が市本村よりも戸数が多くなった。平成十七年、南あわじ市発足と同時に独立した大字となることになった。

【続三原郡史読者の声】

「語り継いでいきたい1冊だ」「神棚に祀っておきたい貴重な歴史本」「淡路学の重要な切り口だ」というご意見をいただきました。購入は市長公室まで

圏編纂事務局

市長公室 ☎43・5002

